

ひよし川柳会

元氣だよいつもたよりはEメール

男武志津江

味噌汁の味に安らぐマイホーム

米子 達雄

猪とわが身の脂冬が旬

伊勢本 恵

里山の実りを捨う牡丹なべ

若宮 賢敬

平成の最後被害が押し寄せる

加藤 桂子

平成へ核廃絶を積み残し

渡辺 光男

贈られた花束かかえ帰途に就く

水野すみこ

贈られて贈り返して和を保ち

宮川 柳酔

匿名で福祉へ贈る生き沸

山本 雅之

人生は笑いで進む長寿道

宇都宮 忍

生き抜いた元気な米寿殊勲賞

熊本 忠真

卒寿過ぎまだまだできるクロツケー

川添 忠昭

わがまち自慢百景「善光寺薬師堂」



P12に掲載している善光寺=小松=は、曹洞宗の寺院。そして、茅葺き屋根が特徴的な善光寺薬師堂は医王山善光寺の境内仏堂です。この薬師堂は昭和52年、「室町期の禅宗様式の特徴を備えた建物であり、四国では最南端に位置する貴重な物件」として、国の重要文化財に指定されました。

また、室内にある厨子（開き戸がついた物入れ）もあわせて指定されており、この厨子の中には、町指定有形文化財に登録されている「木造薬師如来坐像」、厨子の周囲には「二天・十二神将」が安置されています。



▲二天・十二神将

鬼北の足跡を辿る【第6回】

「出土遺物から探る等妙寺旧境内」

今回は、寺院の中核と伝わる平坦部Aから出土した遺物を紹介します。

平坦部Aからは、現在までに極小細片を除くピックアップ資材で、約600点の遺物が出土している。表面採集されている遺物の種類は、地元産の焼き物である「土師質土器」の杯や皿、「中国産陶磁器」の碗や皿類、現在の岡山県備前市付近で生産された「備前焼」の壺、甕、播鉢など中世の時代の遺跡では一般的に出土する生活用具を主体とします。しかし、どうい

うわけか鍋や釜といった煮炊きに使用する容器は出土していません。その他、石臼や砥石、硯、碁石などの石製品、貨幣や和釘などの金属製品も出土しています。

寺院としての性格を特徴づけるものとしては、中国産青白磁梅瓶、青磁香炉、盤、瓶などといった必需品以外の贅沢品や、茶道具(中国産天目茶碗、瀬戸美濃焼天目茶碗、瓦質土器風炉、石臼、茶入れ壺)などが挙げられます。さらに、中国産青磁製の仏像や、日本国内でも出土例の限られる「龍」の文様を施した中国産褐釉壺も出土しています。また、土師質土器の香炉や

灯明皿として使用されたと考えられる煤の付着した杯・皿が多い点も注目されます。

現在、中央公民館1階ロビーで等妙寺旧境内の出土遺物を展示しています。あわせて、熊野田遺跡などから出土した、南予地域では希少な鎌倉時代の遺物を展示しています。ぜひご覧ください。



平坦部A出土の土師質土器灯明皿



(写真左) 平坦部A出土の土製僧形像

(写真右) 平坦部A出土の中国産青磁仏像